

クリスチャンの靈的な闘い

Christian Warfare

エペソ人への手紙6:10-24のクリスチャンの歩みについての学び

A Study through Ephesians 6:10-24 on the Christian life

こちらの冊子は2022年11月にMUSTARD SEED クリスマン教会-仙台で語られた説教の原稿です。これらの説教はエペソ人への手紙の全体を通してのシリーズの一部です。

This booklet is a series of sermon manuscripts that were preached during the month of November 2022 at Mustard Seed Christian Church in Sendai. This was part of a longer series through the Letter to the Ephesians.

第1章: 神のすべての武具を身につけ
なさい

Chapter 1: Put on the whole armor of
God

教会のみなさん、このエペソ人への手紙、私たちは必要としています。この手紙には、教会がどのように生まれたのか、教会とは何か、そして教会の中でクリスチャンとしてどのように生きていくのか、教会についての美しい教えが書かれているから僕はこの手紙の勉強を選びました。

第1章で学んだように、神様はすべてのものを支配しています。世界の創造の前から、すべてのことを計画されました。それは、この教会が開拓され、私たちが今、この手紙を通して学んでいることも含まれています。先読んだ箇所は、よく知られている聖書の箇所です。それは「神の武具」と呼ばれています。

先週、仕事についての話を終えました。その前に家庭のこと、その前にクリスチャンとして教会や世の中でどのように生きるかということでした。今日、この箇所を読み始めると、パウロは戦場での言葉を使っていることに気づくと思います。なぜ、パウロはその言葉を使うのでしょうか？

なんでパウロは突然、「私たちの格闘は血肉に対するものではありません」と言うのでしょうか。パウロがそう言うのは、私たちが今、闘争し、戦争をしているからです。クリスチャンである私たちは、簡単に混乱することがあります。クリスチャンになったとき、あるいは福音の美しさと栄光を体験したとき、それは純粋な喜びです。喜びと平和と愛に満ち溢れています。しかし、その瞬間が過ぎると、人生は困難なものになります。実際、人生は前よりも非常に難しくなっているかもしれません。

なぜでしょうか？クリスチャンになったとき、私たちはサタン力から解放され、罪からの解放を経験すると言われたじゃないですか？神との喜びと平安、そして神を賛美する人生を送るための聖霊からの力を約束されたじゃないですか？しかし、その後、今朝起きて、最初の感情が自殺願望だった人もいます。ほとんど毎日、怒りや憎しみを体験している人もいます。ある人は、子供頃からずっと同じ重荷と誘惑によって重くのしかかり、本当に悲しい思いをしています。何が問題なのでしょう？

問題は、戦争に巻き込まれているのに気づいていないことです。あるいは、分かっているのに、それに対して何もしていないことです。みなさん、あなたは霊的な戦争の中にいるのです。それは絶え間なく続いており、存在する最も力強い霊的悪の存在と戦っています。まず、良い知らせがあります。もしあなたがクリスチャンなら、サタン力から救われました。コロサイ人への手紙1:13-14で、パウロはクリスチャンについてこのように書いています。「御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。」

Church, we need the letter of Ephesians. I chose to study through this together because we are a new church plant and this letter has beautiful teaching about the church; how the church came to be, what the church is, and how do we live as Christians in the church.

Just like we learned in chapter 1 God is ruling all things. He has planned all things from before the creation of the world. And that includes this church being planted and us studying through this letter at this time. The section we just read is a well known passage of Scripture. It is called the armor of God.

Last week we finished talking about work. Before that was the family and before that was how we behave as Christians in the church and in the world. When you begin to read this section today you realize that Paul is using language from the battle field. Why is he doing that?

Why does Paul suddenly say, “we do not wrestle against flesh and blood”? Paul says that because we are currently struggling and fighting a war. As Christians we can easily become confused. When we become a Christian or when we have an experience of the beauty and glory of the gospel it is pure delight. We are full of joy and peace and love. But then that moment passes and life is difficult. In fact, life might be very much more difficult than it was previously.

What is happening? Why is that? When we became a Christian we were told we would be free from the power of Satan and we would experience freedom from sin. We received promises of joy and peace with God and power from the Holy Spirit to live a life that glorifies God. But then, some of you woke up this morning and your first emotions were suicidal. Some of you experience anger and hate almost everyday. Some of us are so sad because we are weighed down by the same burdens and temptations that we have faced since we were children. What is the problem?

The problem is that you are in a war and you don't know it. Or you may know it, but you are not doing anything about it. You are in a spiritual war. It is constant and it is against the most powerful spiritual evil being that exists. First, I have good news. If you are a Christian you have been rescued from the power of Satan. In another letter, the letter to the Colossians 1:13-14 Paul wrote this about Christians: “He has delivered us from the domain of darkness and transferred us to the kingdom of his beloved Son, in whom we have redemption, the forgiveness of sins.”

クリスチャンのみなさん、あなたは暗闇の支配から解放されたのです。あなたは神の王国にいます。それは逆にすることができないことです。しかし、そのことは、今、サタンとそのすべての悪霊があなたを攻撃していることを意味します。もし、ここにいる人で、私が何を言っているかわからない人がいたら、それはおそらくあなたがクリスチャンではないからです。あなたの人生は、たいいていの場合、とても楽だと感じているかもしれません。霊的なことはほとんど考えていないでしょう。ただ起きて、働き、食べ、寝るだけの生活かもしれません。そのような人生を送っているのは、あなたが実はサタンの支配の下にあるからです。悪魔はあなたを自分の支配に置いています。そしてあなたがサタンに服従しているから、サタンはあなたを攻撃しないわけです。あなたが人生ですることはすべて悪魔への服従であり、あなたは実際、神への反逆者なのです。しかし、あなたのための良い知らせは、その反抗、その敵であることを赦されることです。イエスをあなたの主、あなたの王、あなたの救い主として信じることによって、あなたはサタンの支配から解放され、キリストの王国、キリストの御国に入ることができるのです。

しかし、あなたがクリスチャンであるなら、キリストの王国にいます。知らなかったかもしれないけど、クリスチャンになったとき、戦場に出ました。アダムとエバがエデン園でサタンの言うことを聞いたとき、何が起ったと思いますか？彼らは、地を支配し服従させるように言われました。人間は神の管理人として地球を任されたのに、その権威をサタンに与えてしまった。

だから、御子である神がイエス・キリストとして地上に来られたとき、彼は救いの使命のために来ました。私たちをサタンの支配から救い出し、御国に連れ戻し、その力によって私たちが再び地上を支配できるようにするために来られた。ですから、私たちは戦争の中にいます。イエス様は、マタイによる福音書16章で、そういうふうに言われました。ペテロがイエスをキリストと告白したとき、イエスはペテロを見て、こう言っていました、「そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。」

これは、教会が地上のサタンの牙城を攻撃していることを意味します。どのように？それは現実でどういうことでしょうか？それは、エペソ4-6章が語っていることです。よみの門を攻めるとは、教会を開拓して、クリスチャンとして互いに愛し合うことです。結婚することです。子どもを産み、クリスチャン家庭を育てることです。クリスチャンにとって、上司であるうと従業員であるうと、毎日仕事に行くことは戦争行為なのです。あなたの働き方は、キリストの国に従っているものでなければなりません。だから、パウロはこの手紙で、イエス様が天の御座に上られたことをたくさん教えているのです。私たちは戦争をしているからです。

私たちの戦いは、物理的なものではありません。人に対するものではありません。物理的な武器で戦いません。それは霊的なものであり、悪魔に対するものです。悪魔とはどのような敵なのでしょう。ジョン・ストットという学者はエペソ人への手紙の注解で、悪魔は力があり、邪悪で、狡猾であると言っています。

Christian, you have been delivered from the domain of darkness. You are in God's kingdom. That is not something that can be reversed. But, what that means is that now Satan and all his demons are attacking you. If anyone is here and you have no idea what I am talking about that is because you are probably not a Christian. Your life may feel very easy for the most part. You hardly think about spiritual things. You just wake up, work, eat, and sleep. The reason life is that way for you is because you are under the dominion of Satan. The devil has you under his command. He is not attacking you because you are submitted to him. Everything you do in life is in obedience to the Devil and you are actually a rebel to God. But the good news for you is that you can be forgiven of your rebellion. Through faith in Jesus as your Lord, your king and your Savior you can be brought out of Satan's rule and brought into the kingdom of Christ.

But if you are a Christian, you are in Christ's kingdom. You may not have known it, but when you became a Christian you stepped on to the battle field. What do you think happened when Adam and Eve listened to Satan in the Garden? They were told to rule and subdue the earth. Humans were entrusted with the earth by God as his stewards and we gave that authority to Satan.

When God the Son came to earth as the man Jesus Christ he came on a rescue mission. He came to save us out of the dominion of Satan and to bring us back into his kingdom so that, by his power we can rule the earth again. We are in a war. Jesus said this in Matthew 16. When Peter confessed Jesus as the Christ Jesus looked at him and said, "And I tell you, you are Peter, and on this rock I will build my church, and the gates of hell shall not prevail against it."

This means that the church is attacking the stronghold of Satan on earth. How? What does that mean practically? It is what Ephesians 4-6 has been telling us. To attack the gates of hell is to plant churches, love one another, get married, have children and raise Christian families. Going to work each day whether you are a boss or an employee is an act of war for a Christian. The way you work must be in accord with the kingdom of Christ. This is why Paul has taught about Jesus' ascension to his heavenly throne so much in this letter. **WE ARE FIGHTING A WAR!**

Our battle is not physical. It is not against people. It is not fought with physical weapons. It is spiritual and it is against the Devil. What kind of enemy is the Devil? John Stott in his commentary on Ephesians says that the Devil is powerful, evil, and cunning.

その説明は11節と12節から得ています。11節では、私たちは悪魔の策略に対して固く立つと書かれています。悪魔は戦略を持っています。悪魔は頭が悪いわけではありません。彼は信じられないほど頭がいいものです。何千年の間、神の民に対して戦ってきて、戦い方をよく知っています。

12節に、私たちは「支配、力、暗闇の世界の支配者」と戦うと書いてあります。これは悪魔の軍隊の様々な階級の兵士を指しているのか、それとも単にサタンが力強いであることを述べているのか、どちらかです。サタンは存在する最も強力な悪の敵です。サタンは強く、あなたを倒（たお）したいと思っています。サタンは恐れるべき存在ではないけど、尊敬すべきです。

また、12節には、私たちは「もろもろの悪霊に対する」戦うとあります。サタンは悪です。彼は完全に悪です。憐れみを持ちません。誰の利益も望んでいません。サタンは悪をしようとするのみです。人々が多くの良いことをするように導くかもしれませんが、それは、それらが悪の目的に向かって働いているからにほかなりません。サタンは宗教的な偽善が大好きです。人々が宗教的に良いことをして、そのために神に受け入れられていると考えるのが大好きです。私たちに代わってイエスが働いてくださったことによって、完全に恵みによる神の救いの良い知らせを人々が信じないようにするためなら、どんなことでもするのです。

これが私たちの敵です。私たちの敵は本当に力強い、邪悪で、頭のいい存在だから、パウロは私たちに「終わりに言います、主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。」と。13節ではこう言っている「ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。」14節では「堅く立ちなさい」と。

なぜパウロは、立ちなさい、立ちなさい、と言い続けますか？12節の「格闘」という言葉は、接近戦のことです。また、この後に出てくる剣の言葉は、短剣のことです、短いつぎのタイプですね。紀元1世紀頃の戦いを想像してみてください。あなたは戦場にいる兵士です。敵の門の前に立っている敵を見えています。イエス様はマタイ28章の大宣教命令で、「行って弟子となさい」と命令された。あなたは今、前に進み始めて、支配権を守ろうとしている敵が攻めてきました。

次起こるのは、すべての存在の中で一番強い邪悪な敵と接近戦していることです。それ以上、上から火矢が飛んできます。その時あなたはすぐに傷つき、倒れます。なぜ？

びっくりするかもしれませんが、クリスチャン生活で「上手くいっていないな」「負けているかな」落ち込むこと、クリスチャンがこれらの経験をする主な理由の一つは、私たちが戦いの中において、何の武具を持っていないです。武器さえ持っていません。そして、自分の力で戦っているのです。

He gets those words from verse 11 and 12. In verse 11 it says we must stand against the schemes of the Devil. The devil has strategies. He is not dumb. He is incredibly intelligent. He has been fighting against God's people for thousands of years. He knows how to fight very well.

In verse 12 it says we fight against the "rulers..., authorities..., [and]... cosmic powers." Either this is referring to the various ranks of soldiers in the demonic armies or this is simply describing the fact that Satan is powerful. Satan is the most powerful evil enemy that exists. Satan is strong and he wants to defeat you. He is not to be feared, but he is to be respected.

Also in verse 12 it says that we fight against the "spiritual forces of evil." Satan is evil. He is utterly evil. He has no mercy. He does not desire the benefit of anyone. He only ever seeks to do evil. He may lead people to do many good things, but only because those are working toward evil purposes. Satan loves religious hypocrisy. He loves people doing good religious things thinking that they are accepted by God because of the good things they do. Satan will do whatever he can to keep people from believing in the good news of God's salvation that is completely by grace through the work of Jesus on our behalf.

This is our enemy. Because our enemy is so powerful and evil and intelligent Paul tells us "Finally be strong in the Lord and in the strength of his might. Put on the whole armor of God, that you may be able to stand against the schemes of the Devil." In verse 13 he says again, "Therefore take up the whole armor of God, that you may be able to withstand in the evil day, and having done all to stand firm." And then again in 14 he says "Stand therefore."

Why does Paul keep saying stand, stand, stand?! The word in verse 12 "wrestle" refers to close combat. Also the word for the sword he mentions later is a short sword. I want you to imagine battle in the first century AD. You are a soldier on the battle field. You are standing in front of the enemy gates looking at the enemy lines. Jesus, when he gave the Great Commission in Matthew 28 gave the command to "Go!" You now started marching and the enemy, who is very eager to defend their dominion has attacked.

You are now fighting in hand to hand combat with the strongest evil beings in existence. On top of this there are fiery arrows flying down on top of you. Immediately you are wounded and you begin to fall. Why?

This might be surprising but one of the main reasons Christians feel defeated in our Christian life is because we are in a battle and we don't have any armor on. We don't even have a weapon. And we are fighting in our own strength.

パウロが言っていることを見てください。「あなたは神の武具を持っている」とは言っていません。「神があなたに武具を着せた」とも言っていません。何をいっていますか？11節「神のすべての武具を身に付けなさい」13節「神のすべての武具を取りなさい」14-17節では「つけなさい」「取りなさい」「はきなさい」「取りなさい」「取りなさい」と言っています。

イザヤ書では、神は戦士として描かれ、武具を持っておられます。パウロはこの同じ武具に言及しているようです。それは神の武具です。そして、驚くべきことに、私たちはそれを持つことができます。しかし、身につけなければなりません。剣を取らなければなりません。そして、神の力によって強められなければならないのです。あなたがクリスチャン生活で落ち込んだり、怒ったり、傷ついたりしているのは、洋服とiPhoneしか持っていないで戦場に出たからでしょう。

はい、ここで質問が出てくるはずで、私たちはどのようにして神の武具を身につけることができるか？私たちは、どのようにして神の力で強められるのでしょうか？どうすれば御霊の剣を手に入れることができるのでしょうか？それに答えます。

まずは、武具を一つ一つ短くみて行きたいと思います。

パウロは真理の帯から始めています。これもイザヤ書11章5節からです。「正義がその腰の帯となり、真実がその胸の帯となる。」と書かれています。この箇所は、完全な正義と平和をもってすべての民族を支配する未来の王について述べている箇所です。つまり、キリストのことを指しています。ですから、武具は神のものであり、キリストのものであるのです。これは、キリストであるイエスが神でもあることを示す聖書のもう一つの箇所です。

次に、正義の胸当てです。イザヤ書59章では、神様は正義の胸当てと救いのカブトを身に着けます。神様は正しい方であり、救いをもたらしてください。次に、靴です。これは、平和の福音から来る備えを与えてくれます。イザヤ書52:7にこのように書かれています。

良い知らせを伝える人の足は、

山々の上であって、なんと美しいことか。

平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、

救いを告げ知らせ、

「あなたの神は王であられる」と

シオンに言う人の足は。

エルサレムの城壁にいる見張り番が、一人の走っている人を見る姿が描かれている。この走る人は使者です。その時、戦いの勝利の知らせを伝える方法は、走者を送ることでした。そして見張り番は、走者が力いっぱい走っているのを見る。彼は走者の走り方で、それが勝利のメッセージであることをわかることができます。それは平和のメッセージです。私たちには、人々に伝えるべき平和のメッセージがあります。それは福音であり、神との間に平和を持つことが

できるという良い知らせであり、したがって、互いに平和を持つことができるということです。おそらくこの靴は、他の人に福音を伝えたいという熱意、願望を表現しているでしょう。

Look at what Paul says. He does not say, "You have the armor of God." He doesn't say, "God has put his armor on you." What does he say? Verse 11 "Put on the whole armor of God." Verse 13, "Take up the whole armor of God." Then in 14-17 again and again for each piece he says "put on," "take up," "Take."

In Isaiah, God is described as a warrior and he has armor. Paul seems to be referring to this same armor. It is God's armor. And amazingly, we get to have it. But you must put it on. You must take up the sword. And you must be strengthened in God's power. The reason you feel so depressed and angry and wounded in your Christian life is probably because you are in the battle with nothing but 洋服 and an iPhone.

Now, the question should come up, how do we take up the armor of God? How can we be strengthened in God's strength? How can we take up the sword of the Spirit? We will answer that.

First, let's look at each piece of armor briefly.

Paul begins with the belt of truth. This also is from Isaiah in 11:5. It says, "Righteousness shall be the belt of his waist, and faithfulness the belt of his loins." If you remember this passage is describing the future king who will rule all peoples with perfect justice and peace. It is talking about the Christ. So the armor is both God's and the Christ's. This is another place in Scripture that shows that Jesus, who is the Christ, is also God.

Next is the breastplate of righteousness. In Isaiah 59 God puts on a breastplate of righteousness and a helmet of salvation. God is righteous and he brings salvation. Next is the shoes. These give us the readiness that comes from the gospel of peace. Isaiah 52:7 says this:

[7] How beautiful upon the mountains
are the feet of him who brings good news,
who publishes peace, who brings good news of happiness,
who publishes salvation,
who says to Zion, "Your God reigns."

Here is pictured a watchman on the wall of Jerusalem who looks out to see a runner. The runner is a messenger. In that time the way to bring good news of victory from battle was to send a runner. And the watchman sees the runner running with all his might. He can tell by the way the runner is running that it is a message of victory. It is a message of peace. We have a message of peace to give to people. It is the gospel, the good news that they can have peace with God and therefore peace with one another. Probably these shoes are describing an eagerness, a desire to tell others the gospel.

信仰の盾は、サタンが私たちに向かって放つ嘘や疑いをすべて消す、すべての遮断するためのものです。そして、その直後にあるけど、救いのカブトです。救いがカブトであるというのは、私たちクリスチャンの戦いの一部が、自分が救われていることを知ることであることを示しているかもしれません。クリスチャンとして必要な知識はあります。最も重要な真理は、私たちが救われていることを知ることで、理解することです。しかし、ただ知っているだけでは十分ではありません。サタンは、私たちの知識が間違っていると、矢を放ってきます。ですから、私たちは、自分が救われていることを実際に確信を持って信じなければならないので、信仰の盾が必要なのです。

そして最後に、御霊の剣は神の言葉です。聖書は、サタンに対抗する私たちの武器です。聖書は私たちが持っている唯一の武器であり、そして必要とする唯一の武器なのです。

はい、その質問に戻ります。どうやって武具と剣を身につけること、取ることができるでしょうか？

パウロは18節で何をいっていますか？「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。」

どうすれば神の力で強くなれるか？どうしたら、神の武具をすべて身につけることができるでしょうか？どうすれば、御霊の剣を取り上げて戦うことができるでしょうか？私たちは、いつも御霊によって、あらゆる祈りと願いをもって祈ります。これはどういう意味でしょうか？私たちは、どのようにしたら、どんな時にも御霊によって祈ることができる？

こうしたらできると僕は思います。パウロは先ほど、剣は御霊の剣であると言いました。ですから、御霊によって祈ることとは、聖書を使って祈ること。聖書の言葉を祈り、聖書の教えに従って祈ることです。

日常生活の1日の流れは、こんな感じになるかもしれません。まず、あなたは目を覚まします。昨日の夜は遅くまで起きていて、昨日後悔したことをしましたので、最初に感じるのは罪悪感です。目覚ましはIPHONEなので、それを手に取り、すぐにソーシャルメディアを見て、サタンからの嘘で頭をいっぱいにします。これは最悪ですよ。もしこのようなことをしているなら、すぐやめてください。

もう一度最初からはめめます。目が覚めたら、すぐにベッドから出て、ひざまづいて祈りましょう。そして、神様に「今日も与えてくださって感謝します」と伝えましょう。この感じで祈っててください「あなたは私に今日も一日を与えてくれました。あなたは夜の間、私を支えてくれました。これは、この地上にいる私のために、あなたが目的を持っておられることを意味します。どうか、今日もあなたの御心に従って生きることができるよう。あなたの憐れみは毎朝新しいものです。どうか私を憐れんでください。あなたは、必要な時に恵みをいただくために、あなたの恵みの座に来なさいと言いました。自分のためではなく、あなたの栄

光のために生きるために、今日も私に必要な恵みを与えてください。私の救い主であり主であるイエスの御名において、祈ります、アーメン。」

それから、立ち上がって、その朝を始めます。

The shield of faith is what will help us block all of Satan's lies and doubts that he shoots at us. And right next to this is the helmet of salvation. Perhaps salvation being a helmet shows that part of our battle as Christians is to know that we are saved. There is knowledge necessary as a Christian. The most important truth to know and understand is our salvation. However, simply knowing is not enough. Satan will shoot arrows that tell us our knowledge is wrong. So we need the shield of faith because we must actually believe with confidence and certainty that we are saved.

And finally the sword of the Spirit is the word of God. The Bible is our weapon against Satan. It is the only weapon we have and it is the only weapon we need.

But now, how do we put on the armor and take up the sword?

What does Paul say in verse 18? "Praying at all times in the Spirit, with all prayer and supplication."

How can we be strengthened with the power of God? How can we put on all the armor of God? How do we take up and fight with the sword of the Spirit? We pray at all times in the Spirit with all prayer and supplication. What does this mean? How can we pray in the Spirit at all times?

Here is how I think we can do this. Paul just said the sword is the sword of the Spirit. So to pray in the Spirit would seem to be praying using Scripture. Pray the words of the Bible and pray in submission to the teaching of the Bible.

Here is how this could look in your day. First, you wake up. You stayed up too late last night and you did things you regret yesterday so your first feeling is guilt. Your alarm is your phone so you pick it up and immediately look at social media and fill your mind with lies from Satan. This is horrible. If you do this, please stop.

Rather, when you wake up, get out of bed and get on your knees immediately and pray. And tell God, "thank you for this day. You have given me another day. You have sustained me through the night. This tells me that you have a purpose for me still on earth. Please help me to live today according to your will. Your mercies are new every morning. Please have mercy on me. You said to come to your throne of grace to get grace in time of need. Please give me the

grace I need today to live for your glory and not my own. In the name of Jesus, my savior and Lord, amen.”

Then you get up and begin your morning.

その後、昼食時に再び立ち止まり、午前中に神様があなたを通してくださった御業に感謝します。そしてすでに犯した罪の赦しを神に求めます。そして、昼食の食べ物と、あなたの人生のすべてを与えてくださったことに感謝を捧げましょう。

そして、午後になる。これは一日のうちで難しい時間帯です。午後に何かが起こり、不満を感じ始めたとしましょう。あなたは怒っている。情欲している。落ち込んでいる。この瞬間、どうしますか？神の武具を身につけましょう。剣を取りましょう。もし、職場にいて、プライバシーが必要なら、トイレに行ったらいいじゃないですか。または家において、子供たちに後悔するようなことをしようとしているなら、ほんの少しドアの外に出るか、トイレに行って祈ってみてください。

こうして、お祈りしてみてください。様々な聖句を暗記しているので、それを頭に思い浮かべます。例えば、詩篇23篇にしみましょう。「主よ、あなたはわたしの羊飼いです。わたしは乏しいことはありません。私は必要なものをすべて持っています。あなたは良い羊飼いです。私を緑の牧場に伏させてくださいます。いこいに伴われます。あなたの民の一人であることは良いことです。あなたは私の必要を一つ一つ満たしてくださいますし、善良で恵み深い方です。あなたは私の魂を回復してくれます。主よ、私はソーシャルメディアやお菓子やポルノや復讐が私の魂を回復させるとしてしまうんですが私の魂を回復させることができるのはあなただけです。どうかそうしてください。あなたのために私を義の道に導かれます。私の人生は私のためではありません。あなたとあなたの栄光のためなのです。どうか今、私を義の道に導いてください。私は死の陰の谷を歩いていますが、私は恐れませんが、あなたはともにおられますから。あなたに祈ることができます。あなたに助けを求めに行くことができ、あなたは私を助けてくれるでしょう。実際、あなたは善良で誠実な神で、私にふさわしいよりも良くしてください。私の敵のよそで私の前に食卓を整え、私の頭に香油を注ぎ、私の杯は溢れています。ああ、父よ、いつくしみと恵みが私を追ってきて、私は永遠にあなたの家に住むことを知ります。あなたの救いを感謝します。あなたの言葉を感謝します。この福音を感謝します。」というような祈りです。

そして、仕事から家に帰ります。夕食の時にもう一度祈り、寝る前にもう一度祈ります。それは神様の誠実さに感謝します。そして、主の心であれば、あなたが目を覚まして、再び神の栄光のために生きることができるよう、あなたに良い眠りを与え、眠っている間のあなたの考えを守ってくださるよう、神にお願いする祈りです。

このような祈りは、神の武具を身につけることです。このような祈りは、クリスチャン生活を送る方法です。このような祈りはまた、あなたの神に対する信仰を強め、その力によって私たちを救ってくださるこの神について他の人々に伝えたいという熱意をあなたの心に生み出すことです。

Later at lunch you stop again and you thank God for the work he has done through you in the morning. You ask him for forgiveness for the ways you have already sinned. You thank him for the food you have for lunch and for providing everything in your life.

Then comes the afternoon. This is a difficult time of the day. Let's say in the afternoon something happens and you begin to feel dissatisfied. You are getting angry. You are lustful. You are depressed. Now, in this moment, what do you do? Put on the armor of God! Take up the sword! If you are at work and you need privacy then go to the bathroom. If you are at home and you are about to do something you regret to your children, step outside the door for just a moment, or go to the bathroom and pray.

Here is how we do this. You have memorized various Scriptures so you recall them to your mind. Let's do Psalm 23 for an example. You begin praying, "Lord, you are my shepherd; I shall not want. I have everything I need. You are a good shepherd. You make me lie down in green pastures. You lead me beside still waters. It is good to be one of your people. You care for each one of my needs and you are good and gracious. You restore my soul. Lord I think that social media, or sweets, or porn, or revenge will restore my soul. But only you can restore my soul. Please do it. You lead me in paths of righteousness for your sake. My life is not about me. It is about you and your glory. Please lead me in righteousness right now. I am walking through the valley of the shadow of death, but I won't fear. You are with me. I can pray to you. I can come to you for help and you will help me. In fact, you are such a good and faithful God you treat me better than I deserve. You prepare a table before me in the presence of my enemies; you anoint my head with oil; my cup overflows. Oh Father, I know that goodness and mercy shall follow me all the days of my life, and I shall dwell in your house forever. Thank you for your salvation. Thank you for your word. Thank you for this gospel."

Then, you go home from work. You pray again at dinner and you pray again before you go to bed. You thank God for his faithfulness to you. You ask him to give you good sleep and to protect your thoughts as you sleep so that, Lord willing, you wake up and can live for his glory again.

This kind of praying is the putting on the armor of God. This kind of praying is how to live the Christian life. This kind of praying will also increase your faith in God and create in your heart an eagerness to tell others about this God who saves us by his power.

第2章: 忍耐

Chapter 2: Perseverance

今日は、エペソ人への手紙の学びで最後の説教です。5ヶ月以上にわたって、この手紙と一緒に学んできました。これは、使徒パウロがローマで軟禁されている間に、エペソの教会に宛てて書いたものです。おそらく紀元62年ごろのことでした。

パウロはこの手紙を終えるにあたって、忍耐というテーマに目を向けています。この手紙は、キリスト教において、救いは完全に神の恵みによるものであることを教えています。私たちのクリスチャン生活のすべての瞬間は、聖霊を通して神の恵みによって強められただけでなく、天と地創造の前に計画されたものなのです。2:8-10でパウロはこのように言っています。

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

これが真実なら、（真実です、本当は）なぜ私たちは忍耐について話す必要があるのでしょうか？もし私たちが神の贈り物によって完全に救われたら、私たちの努力は必要ないのでしょうか？そうではありません。エペソの人々がパウロの説教を聞かなければ、それによって救われることができないと同じように、クリスチャンも、努力なしに、（たまには非常に激しい努力です）信仰を続けることはできません。2:10はそんな通り言っています。私たちは、神様があらかじめ用意してくださった良い行いに歩んでいます。神様が用意され、私たちは神様の恵みによってそれを行う。ですから、今日は忍耐について話しましょう。

もし今日ここにいるノンクリスチャンなら、まず、大歓迎ですよ。来てくれて、嬉しい。そして、今日の教えでは、クリスチャンであるということがどういうことなのかを知るために、とても役に立つでしょう。

今日は、忍耐の必要性、忍耐の手段、そして最後に忍耐の本質、クリスチャンとしての忍耐とは何なのか、ということについてお話ししたいと思います。

まずは、忍耐の必要性です。

先読んだ聖書の部分は、「そのために」で始まりました。パウロが言っている目的とは何でしょうか？この箇所のはじめをみてみましょう。6:10で、彼は神の力によって強められることと、「悪魔の策略に対して固く立つことができるように神のすべての武具を身につけることについて話しています。

これがそのゴール、その目的。サタンの攻撃を對抗すること、クリスチャンの人生の霊的な戦争を戦うこと、そして、神の力によって最終的な勝利を得ることについて話しています。

そして、先週、主にあって強められること、その神の武具を身につけること、そして御霊の剣をとること、そのすべての方法は祈ることによってできると私たちは学びました。だから、パ

ウロはここで「そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。」とっています。

Today is the last sermon in our study of Ephesians. We have been studying this letter together for over 5 months. This was written by the Apostle Paul to the church in Ephesus while he was under house arrest in Rome. This was probably around the year 62 AD.

As Paul finishes this letter he turns to the theme of perseverance. This letter teaches that in Christianity salvation is completely by God's grace. Every moment of our Christian life is not only empowered by God's grace through his Holy Spirit, but it was also planned before creation. In 2:8-10 Paul says this:

For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; ^Cit is the gift of God, not a result of works, so that no one may boast. For we are his workmanship, created in Christ Jesus for good works, which God prepared beforehand, that we should walk in them.

If this is true, and it is, then why do we need to talk about persevering? If we have been saved and are being saved completely by God's gift, then no effort on our part is necessary right? Wrong. Just as the Ephesians were not saved apart from Paul preaching to them, so Christians do not persevere in their faith apart from effort; sometimes very intense effort. This is what 2:10 says. We walk in the works that God has prepared beforehand. God prepared them and we do them by God's grace. So, we will be talking about perseverance today.

If you are a non-Christian, first you are very welcome here and I am very glad you are here. Second, today's teaching will be very helpful to you to see what it means to be a Christian.

Today we will talk about the necessity of perseverance, the means by which we persevere, and last, the essence of perseverance—what is it?

First, the necessity of perseverance

The portion of Scripture we read began with "to that end." What is the end that Paul is talking about? Look back in this section. He began in 6:10 talking about being strong in God's strength and putting on God's armor "that [we] may be able to stand against the schemes of the devil."

This is the goal that Paul is talking about. He is talking about resisting Satan's attacks, fighting the spiritual war of the Christian life and having final victory by God's power.

And last week we learned that the way to be strengthened in the Lord and to put on his armor and take up the Sword of the Spirit is through prayer. Thus Paul continues, "To that end, keep alert with all perseverance, making supplication for all the saints."

戦いの中で、あなたが立ち続けたいと思うなら、戦い続けなければなりません。敵は休まない。戦いが終わるまで休みはないのです。パウロは、「目を覚まして」と言っています。見張りをする兵士の主な仕事は、目を覚ましていることです。眠った瞬間に敵は攻撃できるのです。パウロは、「目を覚ましていて、忍耐の限りを尽くして」と言っています。パウロは極端な言葉を使って、絶え間ない格闘の必要性を示しています。いつまで我慢しないといけないでしょう。最後までです。

つまり、クリスチャンであることから休憩を取る瞬間はないのです。信仰生活からのヤスミはないのです。そして、パウロは非常に現実的に、祈りによって忍耐することについて話しています。クリスチャンの信仰生活が表現され、達成される主な方法は、神に対する祈りです。私たちは神に助けを求め、力を求め、武具を求め、慰めを求め、恵みを求め、憐れみを求め、大胆さを求め、愛を求め、知恵を求めます。そして、神がそれを与えてくださると信じてお願いし、神が私たちの求めるものを与えてくださるといふ信仰に従って行動するのです。祈りとは、神を喜ばせるために神のために行う宗教的な義務ではありません。祈りとは、私たちが自分の人生のために戦うために、神に向かって／神に対して行うものなのです。

そして、18節の部分をもう一度見てください。「すべての聖徒のために祈りなさい」。忍耐することは、自分一人ですることではありません。祈りによって、私たちはお互いに主にあって強められ、神の武具を身につけることができます。戦いの中で、私たちはお互いに肩を並べて戦います。もし一人が戦うことをやめたら、自分が倒れるだけでなく、周りの人たちもより多くの敵に攻撃されることになります。互いのために祈りましょう。もしこの教会のメンバーであれば、メンバー全員の祈りのリストを持っています。そのリストのみんなのために定期的に祈りましょう。全員のために祈りましょう。あなたの祈りによって、お互いが信仰に耐えることができるように助けてください。そして、教会のメンバーなら、僕は毎週何度もあなた方全員のために祈っていることを知ってほしいと思います。また、私のために祈ってください。牧師はあなたの助けを必要としないと思う誘惑があるかどうかわかりませんが、それはサタンからの嘘です。皆さんが私の祈りを必要としているのと同じように、私も皆さんの祈りを、そして私の家族も皆さんの祈りを必要としています。

忍耐は必要です。忍耐しなければ、倒れてしまいます。戦いに負ける。最後まで戦い続けることが、戦争に勝つための唯一の方法なのです。

次は忍耐の手段です。どうやって、忍耐ができる？

祈りについては、もうお話しましたけれども、これは、私たちが信仰に忍耐するための主要な方法です。聖霊の剣である聖書を手に取り、聖書の教えに従って祈りましょう。先週、私は詩篇23篇の例を挙げました。すべての詩篇、そして本当にすべての聖書は、私たちの祈りの助けとなるように用いられるべきものです。マタイ6章の「主の祈り」は究極の祈りの模範です。その言葉をそのまま祈ることもできますし、その言葉があなたの祈りにインスピレーションを与えることもできます。自分のために祈り、他の人のために祈りましょう。

In a battle, if you want to stay standing you must keep fighting. Your enemy does not rest. There are no breaks until the battle is over. Paul says, "keep alert." It is the main task of the soldier who is on watch duty to stay awake. The moment you fall asleep the enemy is able to attack. Paul says, "keep alert with all perseverance." Paul is using extreme language to show the necessity for unceasing struggle. How long must we persevere? To the end!

This means there is no moment when we get to take a break from being a Christian. There are no yasumi's from a life of faith. And very practically Paul is talking about persevering through prayer. The main way the Christian's life of faith is expressed and accomplished is through prayer to God. We ask God for help, for strength, for his armor, for his comfort, for grace, for mercy, for boldness, for love, for wisdom. And we ask him trusting that he will give it and then we act according to faith that God will give what we ask for. Prayer is not a religious duty we perform for God in order to please him. Prayer is something we do unto/toward God in order to fight for our life!

And look at the last part of v18 "making supplication for all the saints." Persevering is not done by ourselves. Through our prayers we help each other be strengthened in the Lord and put on the armor of God. In battle we fight side by side with each other. If we stop fighting, not only will we fall, but those around us will also have more enemies attacking them. Pray for each other. If you are a member of this church you have a prayer list of all the members of this church. Pray through that list regularly. Pray for everyone on the list. Help each other persevere in the faith through your prayers. If you are member of this church I want you to know that I pray for all of you multiple times every week. Please also pray for me. I don't know if you are ever tempted to think that pastors don't need your help, but that is a lie from Satan. I need your prayers and my family needs your prayers just as much as any of you need mine.

It is necessary that you persevere because if you don't then you will fall. You will lose the battle. Continued fighting until the end of the battle is the only way to win a war.

Next, the means of perseverance. How do we persevere?

We already talked about prayer. This is the main way we persevere in our faith. Pick up the Bible, the sword of the Spirit and pray according to what the Bible teaches. Last week I gave the example from Psalm 23. All the psalms and really all of Scripture should be used to help our prayers. The Lord's Prayer from Matthew 6 is the ultimate model prayer. You can pray those exact words as well as letting those words inspire your prayer. Pray for yourself and pray for others.

この箇所で見られる忍耐のためのもう一つの手段は、積極的な模範を示す励ましです。パウロは、「私たちの様子を知って、心に励ましを受けるために」ティキコを送ったと言っています。ティキコは、おそらくこの手紙を教会に届けた人物です。彼はパウロの同僚の一人で、パウロがエペソで最初に宣教した後、パウロと一緒にいたようです。パウロは、手紙を運んだり、メッセージを伝えたりするために、ティキコをいろいろなところに送り出しました。パウロは、この手紙を渡すと同時に、状況を伝え、励ますために送りました。

パウロはその時、ローマに軟禁され、ローマ兵に鎖でつながれている。使徒の働きの一番最後にこう書かれている。「パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」

パウロはあきらめていなかった。決して良い状況ではなかったのですが、忍耐していたのです。私たちは時々、困難な状況にいるとき、神を信頼することをあきらめるように誘惑されることがあります。キリスト教はうまくいかないと思い始めるかもしれません。もしかしたら、神様は存在しないかもしれない。存在しているなら、そんなに力はないかなと思ってしまう。あるいは、神様は良いお方ではないかもしれません。神様は強いけれど、私のことなど気にしていないのかもしれない。

パウロは非常に苦しんだのに、こんな思いをすることはなかった。苦しみはクリスチャン・ライフの一部です。それは決して、神が私たちを愛していないことを示すものではありません。キリストにある者にとっては、すべてのことが私たちのために良い目的のために働いています。パウロは軟禁されていましたが、エペソ教会に自分の状態を知ってもらおうとしました。彼は自分の状況の皮肉を隠していたわけではありません。彼は使徒でした。この言葉は「遣わされた者」という意味ですが、彼はどこにも行くことができなかったのです。20節では、自分を「鎖につながれている使節」と言いながら、まだ使徒としての仕事をしていると言っているのです。

パウロは、自分が投獄されたことは神の計画が失敗したとは思っていませんでした。イエスが望んでおられることを自分ができないとは思っていなかったのです。それどころか、パウロは自分の投獄を、イエスから与えられた使命を遂行するための手段だと考えていたのです。そして、パウロは、自分があきらめていないこと、神様の計画が失敗しているとは思っていないことを教会に知ってもらいたかったのです。

私たちが一人で苦しんでいるとき、落胆は重く、「イエスに忠実であること以外のことをして見た方が…」というサタンの嘘を信じてしまいがちです。しかし、私たちよりもはるかに困難な状況にありながら、忍耐している他のクリスチャンの話を知れば、励まされます。ですから、教会で他のクリスチャンと話してみてください。お互いを知ることは助かりますよ。

そして、キリスト教の伝記を読むことも励ましになります。これを習慣にすることをお勧めします。毎年、忠実なクリスチャンの伝記を読み、迫害とか、殉教の中でも忠実であり続けた人たちに励まされましょう。

Another means for persevering that we see in this passage is the encouragement of a positive example. Paul says he sent Tychicus to them to tell them “how we are, and that he may encourage your hearts.” Tychicus was probably the person who delivered this letter to the church. He seems to have been one of Paul’s coworkers who joined him after Paul’s first ministry in Ephesus. Paul sent Tychicus various places to carry letters or convey a message. Paul sent Tychicus to give this letter as well as to tell them how things were and to encourage them.

Paul is currently in Rome under house arrest, chained to a Roman soldier. The very end of Acts puts it this way, Acts 28:30-31, “He lived there two whole years at his own expense, and welcomed all who came to him, [31] proclaiming the kingdom of God and teaching about the Lord Jesus Christ with all boldness and without hindrance.”

Paul was not giving up. He was not in a good situation, but he was persevering. Sometimes when we are in difficult situations we can be tempted to give up trusting God. We can begin to think Christianity doesn’t work. Maybe God is not actually real. If he is real he must not be powerful. Or maybe he isn’t good. Maybe God is powerful, but he doesn’t care about me.

Paul suffered tremendously and yet he never had these thoughts. Suffering is part of the Christian life. It is never an indicator that God does not love us. For those who are in Christ all things are working for good purposes for us. Paul was under house arrest, but he wanted the Ephesian church to know his condition. He was not hiding the irony of his situation. He was an apostle. This word means “sent one,” and yet he was not able to go anywhere. In verse 20 he calls himself an “ambassador in chains” and yet says he is still doing the work of an apostle.

Paul did not think his imprisonment was a mistake. He did not think he was not able to do what Jesus wanted him to do. On the contrary Paul viewed his imprisonment as the means by which he carried out the mission Jesus gave him. And Paul wanted the church to know that he was not giving up and he did not believe God’s plan was failing.

When we are suffering alone discouragement is heavy and it is easy to believe the lies of Satan that tell us we should try something else other than being faithful to Jesus. But, when we hear of other Christians who are in much more difficult situations than we are and yet are persevering it is encouraging. This is why it is good to talk to other Christians in the church and get to know each other. It is also encouraging to read Christian biographies. I recommend you make this a habit. Read a biography of a faithful Christian every year and be encouraged by those who stayed faithful through persecution and martyrdom.

最後にクリスチャンの人生、クリスチャンの歩みの最後まで忍耐することの本質とは何ですか？

忍耐するとはどういうことかという、主イエス・キリストに忠実であり続けようとする積極的な努力のことだと思います。言い換えれば、クリスチャンであり続けることを選択することです。僕はこのような積極的な努力、選択という言葉を選んだのは、パウロが教会に忍耐を命じていることからです。「そのために、目を覚ましていて...忍耐の限りを尽くして」と言っているのです。この命令に従うために、私たちは進み続けることを選択しなければなりません。クリスチャンとして生き続けるために、積極的に努力しなければならないのです。

イエス様に忠実であり続けるということは、私たちの生涯を通じて信仰を続けることを決意するということです。また、日常生活のあらゆる場面、あらゆる瞬間に信仰を継続することを意味します。私たちの信仰はプライベートのものだけではありません。公だけでのクリスチャンでもありません。職場でも学校でも寝室でも、イエス様への信仰によって生きていない場所、瞬間はないのです。

忍耐とは「忠実であり続けようとする積極的な努力」と言いましたのでそのイエス様に忠実であることについて話していきたいと思います。

パウロとティキコの態度と行動には、忠実さの模範が見られると思います。そして24節で、パウロはこのような態度や行動を生み出す心の内実を語っていると思います。時間の関係で、パウロについてだけ話します。しかし、ティキコは驚くべき人物なので、新約聖書を見て、ティキコが言及されている箇所を確認することをお勧めします。

パウロは、大胆に福音を宣べ伝えることができるよう、祈りを願っています。大胆な伝道。この言葉を聞いて、どう感じますか？

クリスチャンであれば、「大胆な伝道」という言葉を聞いて、すぐに恐れでいっぱいになるかもしれません。「やばい、伝道嫌い! これだからクリスチャンは嫌なんだ。」 そう思う前に、この箇所をよく見てみましょう。また、大胆さを持つとはどういうことなのか、定義を探してみましょう。

まず、エペソ人への手紙の中でパウロが「大胆さ」という言葉を使った別の場所を見てみましょう。3:11-12には、「私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた、永遠のご計画によるものです。私たちはこのキリストにあって、キリストに対する信仰により、確信をもって大胆に神に近づくことができます。」と書かれています。

神様に近づくことができます。神に近づくことは、私たちの代わりにイエス様が働いてくださったことで、私たちに与えられました。ですから、大胆に神のもとに来ることができる確信があるのです。ですから、この節では、大胆になるとは、自由に神のもとに来ること、その自

由の気持ちと同じ意味です。叱られることを恐れないのです。私たちは、神に近づくことを歓迎されているという確信があるので、大胆に、自由に入ってくるのです。

Last is the essence of persevering in the Christian life.

What it means to persevere seems to be an active effort toward continued faithfulness to the Lord Jesus Christ. In other words, choosing to keep being a Christian all the time. I get this idea of an active effort or a choice simply from the fact that Paul commands the church to persevere. He said, “To that end, keep alert with all perseverance.” In order to obey this command we must choose to keep going. We must actively put effort toward continuing to live as a Christian.

Persevering in faithfulness to Jesus means we decide to continue our faith throughout our whole life. It also means we continue our faith in every situation at every moment of our daily lives. We are not Christians in private only. And we are not Christians in public only. There is no place, no moment, whether work or school or in your bedroom where you do not live by faith in Jesus.

I said that perseverance is “an active effort toward continued *faithfulness*” so I want to talk about what it means to be faithful to Jesus.

In the attitude and actions of Paul and Tychicus I think we see an example of faithfulness. In verse 24 I think Paul tells us the inner heart-reality that produces these attitudes and actions. For the sake of time I’m only going to talk about Paul. But I encourage you to look through the New Testament to see the places where Tychicus is mentioned because he is remarkable.

Paul asks for prayer that he would boldly proclaim the gospel. Bold evangelism. How do those words make you feel?

If you are a Christian, you might hear the words “bold evangelism” and instantly be filled with fear. “Oh no, not evangelism! This is why I hate being a Christian.” Before you think that let’s look at this passage closer. Also, let’s try to get a definition of what it means to have boldness.

First, let’s look at another place in Ephesians where Paul uses the word “boldness.” 3:11-12 says, “This was according to the eternal purpose that he has realized in Christ Jesus our Lord, [12] in whom we have boldness and access with confidence through our faith in him.”

The access we have is access to God. Access to God was given to us through the work of Jesus on our behalf. That is why we have confidence to come to God boldly. So in this verse it

seems that to be bold is the same as feeling free to come to God. There is no fear of rebuke. We have confidence that we are welcome to come near to God so we come boldly, we come freely.

次に、大胆な伝道の例を見てみましょう。ペテロは、当時のユダヤ人の最高裁判所であったユダヤ人会議に向かって話しています。そこには、高度な教育を受けた学者や祭司が大勢いました。使徒4:8-13。

そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。 私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」 彼らはペテロとヨハネの大胆さを見、また二人が無学な普通の人であるのを知って驚いた。また、二人がイエスともにしたのだということも分かってきた。

この箇所は、ペテロとヨハネが社会的地位が低かったにもかかわらず、大胆であったことを強調しているようです。つまり、ここでも、相手が誰であれ、正しいことは何でも自由に言えるという考え方が、「大胆であること」を意味するようです。

最後の例は、ヨハネ7:11-13です。これは、イエスに対するユダヤ人の様々な反応について述べています。「ユダヤ人たちは祭りの場で、「あの人はどこにいるのか」と言って、イエスを捜していた。群衆はイエスについて、小声でいろいろと話をしていた。ある人たちは「良い人だ」と言い、別の人たちは「違う。群衆を惑わしているのだ」と言っていた。しかし、ユダヤ人たちを恐れたため、イエスについて公然と語る者はだれもいなかった。」

この「公然」と訳された言葉は、実は「大胆に」と訳されたギリシャ語と同じ言葉なのです。これは、明確に大胆な伝道とは、自由にする、その自由な気持ちでする伝道であることを示していると思います。恐れはありません。自分の社会的地位は関係ありません。社会的な結果がどうなるかは問題ではありません。ただ自由に真実を伝えればよいという気持ちです。

これは重要なことで、大胆さは失礼な話し方という意味ではありません。大きな声を出すということでもありません。また、語ることがうまい人でなければならないということでもありません。ただ、恐れることなく、自由に真実を語るができるということです。

ここで、皆さんに気づいていただきたいとても大切なことがあります。パウロは「大胆になるように」と祈りを求めています。彼は「私のように大胆になりなさい」とは言っていません。

「私のためにも、私が口を開くときに語るべき言葉が与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください」と言っているのです。大胆さは神からの贈り物で、神からいただくものです。大胆な伝道者になるためには、大胆さを与えてくださるよう神に頼まなければならない。

Next, let's look at an example of bold evangelism. Peter is speaking to the Jewish council which was basically the Supreme Court of the Jewish people at that time. It was full of highly educated scholars and priests. Acts 4:8-13:

[8] Then Peter, filled with the Holy Spirit, said to them, "Rulers of the people and elders, [9] if we are being examined today concerning a good deed done to a crippled man, by what means this man has been healed, [10] let it be known to all of you and to all the people of Israel that by the name of Jesus Christ of Nazareth, whom you crucified, whom God raised from the dead—by him this man is standing before you well. [11] This Jesus is the stone that was rejected by you, the builders, which has become the cornerstone. [12] And there is salvation in no one else, for there is no other name under heaven given among men by which we must be saved." [13] Now when they saw the boldness of Peter and John, and perceived that they were uneducated, common men, they were astonished. And they recognized that they had been with Jesus.

This passage seems to be highlighting the fact that even though Peter and John had low social-status they were still bold. So again, the idea of feeling free to say whatever is true no matter who you are talking to seems to be what it means to be bold.

The last example is John 7:11-13. this is talking about the Jewish people's various responses to Jesus. "[11] The Jews were looking for him at the feast, and saying, "Where is he?" [12] And there was much muttering about him among the people. While some said, "He is a good man," others said, "No, he is leading the people astray." [13] Yet for fear of the Jews no one spoke openly of him."

The word translated "openly" is actually the same Greek word that is translated "boldly." I think this offers a lot of clarity that shows that bold evangelism is actually just evangelism done freely. There is no fear. It doesn't matter what your social status is. It doesn't matter what social consequences will happen. You just feel free to tell the truth.

This is important because it means boldness does not mean rudeness. It does not mean being loud. It does not mean you must be a skilled speaker. It just means you feel free to say the truth without fear.

Here is something very important I want everyone to notice. Paul asks for prayer that he would be bold. He doesn't say, "Be bold like me." He says, "pray for me that words may be given me in opening my mouth boldly." Boldness is a gift from God that must be received. In order to become a bold evangelist you have to ask God to give you boldness.

だからここで、イエス様に忠実であることに戻ります。パウロは大胆になりたいという望みを持っていました。だから、祈りを求めました。大きな質問があります。もしあなたが大胆な伝道者でないなら、そうなりたいですか？そして、もしあなたが大胆にイエスによる救いの福音を人々に伝えたいと思わないのなら、それはなぜでしょうか？

これは、クリスチャンであることの意味の一部であるため、非常に重要なことです。あなたは、いつでも自由に、恐れずに、愛をもって、誰にでも福音を伝えることができる人になりたいですか？もしそうでないなら、なぜそうしないのでしょうか？もしあなたがクリスチャンなら、今すぐ悔い改めて、イエスに大胆さを与えてくださるように祈ってください。あなたが大胆になりたいと思うように、あなたの心を変えてくださるようお願いしてください。

最後に、24節でパウロは、「朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人とともに、恵みがありますように」と祈っています。これは何でしょうか？何を話している？

この手紙の中でパウロは、私たちに對する神様の愛と、キリストのご自分の民に對する愛について教えています。1:4-5では、「神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられました。」と語っています。2:4では、神は私たちが愛してくださった大きな愛のゆえに、私たちに對する憐れみが豊かであると言いました。3:17-19でパウロは、私たちが"人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますようにと祈りました。5:1-2では、愛されている子供らしく神に倣い、「キリストも私たちが愛して、私たちのために、ご自分を捧げてくださったように、愛のうちに歩みなさい」と言いました。5:25では、「キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を捧げられたように"夫が妻を愛するように勧められました。そして最後にここでこう祈っている「朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人とともに、恵みがありますように」

なんでしょう、これ？

神は、キリストにあって、永遠の昔から私たちを愛すると決められたのです。永遠の、朽ちることのない愛で、ご自分の民を愛してくださったのです。今、キリストにある神の民への愛のゆえに、この世界には同じ愛でイエスを愛する人々がいます。どうしてこのようなことが可能なのでしょうか。23節でパウロは、教会が父なる神と主イエス・キリストからの愛がありますようにと祈っています。私たちはどうやってキリストを通して神様の愛を心に受けたのでしょうか。その答えは、神様が私たちに与えてくださったのです。1:13-14にこう書いてあります。「このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとなされ、神の栄光がほめたたえられるためです。」

Here is where we come back to faithfulness to Jesus: Paul had the desire to be bold. That is why he asked for prayer. Here is a big question: if you are not a bold evangelist, do you want to be? And, if you do not want to boldly tell people the good news of salvation through Jesus, why?

This is very important because this is part of what it means to be a Christian. Do you want to be the kind of person who can freely, fearlessly, lovingly tell anyone and everyone the gospel at any time? If not, why not? If you are a Christian, repent right now and pray and ask Jesus to give you boldness. Ask him to change your heart so that you want to be bold.

Last, in verse 24 Paul prays that grace would be given to those “who love our Lord Jesus Christ with love incorruptible.” What is this? What is he talking about?

All through this letter Paul has been teaching us about God’s love for us and Christ’s love for us, his people. In 1:4-5 he told us that “In love [5] God predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will.” In 2:4 he said God was rich in mercy toward us “because of the great love with which he loved us.” In 3:17-19 Paul prayed that we would “know the love of Christ that surpasses knowledge.” In 5:1-2 he told us to imitate God as beloved children “and walk in love, as Christ loved us and gave himself up for us.” In 5:25 he exhorted husbands to love their wives “as Christ loved the church and gave himself up for her.” And now here at the end he prays “Grace be with all who love our Lord Jesus Christ with love incorruptible.”

What is this?

God, in Christ, has decided to love us since eternity past. He has loved his people with an eternal, incorruptible love. Now because of God’s love for his people in Christ, there are people in this world who love Jesus with the same love. How is this possible? In verse 23 Paul prays that the church would receive love from God the Father and the Lord Jesus Christ. How did we get God’s love for God through Christ in our hearts? The answer is that God gave it to us. In 1:13-14 it says, “[13] In him you also, when you heard the word of truth, the gospel of your salvation, and believed in him, were sealed with the promised Holy Spirit, [14] who is the guarantee of our inheritance until we acquire possession of it, to the praise of his glory.”

父なる神は、永遠の昔から私たちが愛し、私たちが赦され、永遠に神の国に迎えられるように、私たちの罪のために死ぬためにイエスを遣わされました。そして、この相続を保証するために、私たちの心に御霊を遣わされたのです。主イエス・キリストを朽ちることのない愛で愛する人は、神がその愛をあなたの中に入れてくださったので、そうしているわけです。

ですから、エペソ人への手紙の学びの最後の質問は、「あなたは主イエス・キリストを愛していますか？」というものです。これは重要です。なぜなら、これこそがクリスチャンであることの意味だからです。これこそ、忍耐を生み出す心の内実です。これが大胆な伝道への望みを生み出すのです。神の霊があなたのうちにいなければ、あなたは最後まで忍耐することはできません。では、あなたはイエスを愛していますか？主イエス・キリストを愛していますか？パウロは目的意識を持って言葉を選んでいました。本物のクリスチャンは、ナザレの歴史上の人物であるイエス様だけを愛しているわけではありません。王であるイエス様だけを愛しているわけではありません。そして、救い主イエスだけを愛しているわけではありません。彼らは主イエス・キリストを愛しているのです。

主は、すべてのものの王であり、主であり、復活し、昇天し、天の御座から支配しておられる方です。少女マリアから生まれ、完全な生涯を送り、人々の罪のために身代わりになって死に、死からよみがえった救い主、キリストです。彼は、本当に生きて、本当に試練と困難を経験し、本当に死んで、本当に葬られた実在の人、イエス様なのです。あなたはこの方を愛していますか？もしそうでないなら、あなたはクリスチャンではありません。そして、あなたが主イエス・キリストを愛していないので、大胆に伝道しようという気持ちがないのもわかります。

しかし、クリスチャンになることができます。もしあなたが悔い改めて、福音、つまりこの同じイエスがあなたの罪のために死に、あなたを永遠に救い、彼の王国に連れて行くために死からよみがえったという良い知らせを信じるなら、あなたはクリスチャンになることができます。イエス様は来て、死んで、よみがえり、昇天し、そしてまた来て、すべてを新しくしてください。

God the Father loved us from eternity past and so he sent Jesus to die for our sins so that we would be forgiven and welcomed into his kingdom forever. Then he sent the Spirit into our hearts to guarantee this inheritance. Those who love the Lord Jesus Christ with an incorruptible love do so because God has put that love in you.

So the last question to ask in our Ephesians study is, "Do you love the Lord Jesus Christ?" This is important because this is what it means to be a Christian. This is the inner heart reality that produces perseverance. This is what produces a desire for bold evangelism. You won't persevere to the end unless God's Spirit is in you. So do you love Jesus? Do you love the Lord Jesus Christ? Paul is purposeful with his words. Genuine Christians don't just love Jesus, the historical person from Nazareth. They don't only love Jesus the king. And they don't only love Jesus the savior. They love the Lord Jesus Christ.

He is the Lord, the king and master of all things, resurrected and ascended and ruling from his throne in heaven. He is the Christ, the savior who was born of the Virgin Mary, lived a perfect life, died a substitutionary death for the sins of his people and rose from the dead. He is Jesus, the real man who really lived and really experienced trials and difficulties and really died and was really buried. Do you love him? If not you are not a Christian. And I can see why you don't have any desire to boldly evangelize because you don't love the Lord Jesus Christ.

But, you can become a Christian. If you repent and believe the gospel, the good news that this same Jesus died for your sins and rose from the dead to save you forever and bring you into his kingdom, then you can be a Christian. Jesus came, he died, he rose, he ascended, and he will come again and make all things new.